

ましみずの里

No. 2
R2. 4. 15
校長
海老洋一

～自ら学び ともに伸びる～ 自ら考え表現し合い・自ら開きわかり合い・自ら挑み高め合う子どもを育てます

創立147周年 高掬小学校の誕生日によせて

例年よりも早く桜が咲き、春のさわやかな日差しと風がこちよい今日4月15日。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休校中で291名のみなさんがいない中で、わたしたちの学校、高掬小学校は147回目の誕生日を迎えました。来週の20日(月)と30日(木)か5月1日(金)は、臨時登校日となり、みなさんと久しぶりに会えるのがとても楽しみなのですが、テレビや新聞でも言われているように、できるだけ3つの密(密閉・密集・密接)を避けて、大勢のみなさんが長時間にわたって過ごすことが無いように、今年度の学習を進めていかなければいけません。みなさんにも協力してもらいながら学習を進めていきます。

さて、高掬小の創立147年間をふり振り返り、高掬地区のみなさんの思いや願いとともに、この危機的な状況乗り越えていくために、私たちは何を大切に学び続けることが必要なのか、2つ話します。

1つめです。高掬小学校ができたのは、今から146年前の明治6年4月15日です。願行寺の一角に、「第八番学校」として、天童市で最も早く開校した学校です。明治という新しい世の中になって、日本の国を強く、豊かにして世界に開かれた文明国にするためには、子どもたちに教育をしなければならない、つまり、どの子どもも字が書けて、本が読める、そして数を数えられるようにしたいと考えたのです。そして、当時の高掬地区の方々は、どこよりも早く、高掬の子どもたちに最高の教育を受けさせたくて、当時37名もの優秀な先生方を山形県や県外から呼んできたのです。ということは、高掬の子どもたちには、字が書けて、本が読めて、計算ができる力を身に付けさせたいという、地区のみなさんの思いや願いがとても強かったと想像できます。このことは、実は今も同じです。地域の方々やみなさんの家族は、今のようなコロナウイルスと闘っている世の中であっても、自分の夢や未来に向かって、人の役に立つ自立した大人になれるように、自分で物事をしっかりと考え、自分の持ち味を生かした方法で表現し、そして何よりも自分とは違う、大勢の人とわかり合いながら、自分のくらしをつくってほしいと願っています。そのような思いや願いがあることを心に留めて、今年度の歩みを進めましょう。

2つめです。今から約70年前の昭和の時代、日本は中国やアジアの国々、そしてアメリカと何年もの間、戦争をしていました。そしてその戦争に敗れ、子どもを含め300万人以上の方が亡くなりました。その後、新しい国づくりが始まり、2度と戦争はしないという考えのもと現在の憲法がつくられました。当時は、1000人以上の子どもたちが学んでいたそうです。戦争が行われていたときは、食糧不足を少しでも補うために、高掬小学校のグラウンドの半分を畑にして野菜を育て、いちょうの木のそばに防空壕と言って、敵の攻撃から身を守るために土の中に穴を掘って、そこに隠れたりしたそうです。また、当時の高掬小学校には、他の小学校にはない、100Mが直線で走れる広いグラウンドとプールがあったそうです。高掬地区のみなさんは新しい時代を担う子どもたちに、しっかりとした体力をつけ、苦しい時もそれを乗り越えていく強い心を育てたいと願っていたと、私は想像しています。このことは、実は今も同じです。目には見えないコロナウイルスとの闘いで、休校になり、思うように学校での学習が進まず、今は毎日、自分の家で学習している状況です。ある意味、とても苦しい状況です。それをどのように乗り越えていくか、みなさん一人一人がどのようなくらしをつくっていけばいいのか考えて、行動していく力が求められています。来週の臨時登校日で先生達とこれまでの休校期間中のくらしについて振り返り、5月10日までの休校期間中の学習の計画を立てます。どんな自分になりたいのか、改めて確認し、今年度の歩みを進めましょう。

結びに、明治から令和の時代へと時代が移り変わり、多くの危機的な状況を高掬の子供達は乗り越えてきたのだと思います。そしてその時々、地区の方々やみなさんの家族からは、社会で自立した大人になってほしい、命を大切に生きてほしいという熱い思いや願いが、脈々と受け継がれていることが、高掬地区の大きな財産であり、誇りだと思います。今年度291名が、今年1年間、6年生を中心に、歴史をつくってきた先輩たちと同じように、社会で自立し、人の役に立つ大人になるという目標を持って、今年度の教育目標「自ら学び、ともに伸びる」、児童会目標「笑顔」をめざして、みんなで歩んでいきましょう。